

# 十勝岳（2077m）日本百名山

2024 年 7 月 10 日 Shiba

大雪、トムラウシと並び北海道のど真ん中に位置する十勝岳。今なお活発な活動が続ける活火山でもある。主な入下山口としては十勝岳温泉口もあるが、所要時間的に手軽である望岳台登山口からのピストンを選択した。

旭川や富良野などの観光要地からも近い場所ではあるが、それでもなお近い美瑛町の民宿に宿を取った。宿から望岳台登山口までは車で



望岳台登山口の防災施設

15 分程。駐車スペースは 50 台程か、着いた時にはほぼ満車状態。ここには火山噴火時に備えて、防災拠点として機能する防災施設があり管理人が詰めている。いざという時には防災対策本部を設置することを想定しているのであろう、小さな体育館程のスペースがありトイレもウォシュレット付きで快適である。登山者にとってこんな施設を利用できるのは大変ありがたい。

登山届所は当該防災施設の入り口にあり、ノートに記帳するようになっている。出発は 6：40。登山口は駐車場の南西隅にあり、ここから



望岳台から十勝岳方面を望む

望岳台の広場に立ち入る。空は晴れとは言え望岳台からの十勝岳は中腹以上が雲に隠れている。ここから緩やかな道が始まり1時間強で避難小屋に着く。避難小屋を過ぎると道は急になりだし、火山特有の草木のない火山礫と火山岩の道になる。2時間半程で昭和火口壁の上に登り詰める。ここからの景観は火山連山特有の景色。雲も上の方へ移動してくれてはいるが、山頂はまだガスに覆われたまま。風もきつく風よけを羽織る。昭和火口壁上の火山礫のゆるやかなスロープを過ぎるとまた道も急なになってくる。火山礫が積もった所では多少足を取られ



十勝岳直下より下方を望む

るところもある。道が急峻になりガレ場になると山頂直下。風も一段ときつく感じる。4 時間弱で頂上に立つ。山頂はガスに包まれたままで風もきつい。風の当たらない岩陰で 30 分程粘るも、全くガスは晴れず下山をすることに。

下山途中も頂上が見えないかと時々振り返りはしたが綺麗に晴れることはなかった。下山後防災施設で休憩して帰ろうとした頃には十勝岳も顔を覗かせるようになり、遠くからで迫力には欠けるが写真に収めることだけはできた。



十勝岳山頂の標識

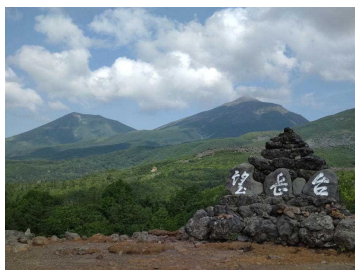
◆メンバー：S、他1人

◆コース：望岳台 6：40～避難小屋～昭和火口  
～10：30 十勝岳～避難小屋～13：40 望岳台

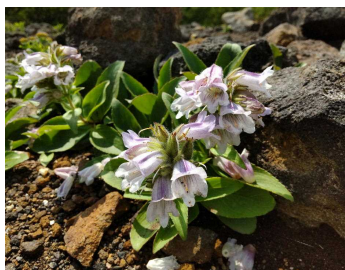
◆所要時間／歩行時間：7時間／6時間15分



下山後望岳台より十勝岳を望む



美瑛岳



イワブクロ